

社会保障教育 授業実践レポート

○授業者:東京都立国際高等学校 主任教諭 宮崎三喜男 先生

○充当科目:政治・経済

○授業実践例

【1限目】

・授業のねらい:社会保障制度について、全体像を把握する。

社会保障制度について興味を持ち、関心を高める。

展開	生徒の学習活動	教師の指導・工夫	使用教材
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・年金教材『10個の「10分間講座」』を考え、回答する。 ・映像教材付属の『社会保障って、なに?』ワークシートの設問1に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年金教材『10個の「10分間講座」』のクイズを数問ピックアップして出題する。 ※ 本授業は、「みんなは何歳まで生きたい?」と問いかけながら、長生きした場合の生活費のことを考えさせながら、クイズを実施。 ・映像教材付属の『社会保障って、なに?』ワークシートの設問1を考えさせ、○か×を記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年金教材『10個の「10分間講座」』 ・映像教材付属ワークシート
展開1 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・映像教材付属の『社会保障って、なに?』ワークシートに記入しながら、映像教材を視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像教材を視聴し、社会保障制度に関するイメージを具体化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像教材 ・映像教材付属ワークシート
展開2 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の中の「社会保険」の考え方や仕組みを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の中心が「社会保険」であることを説明し、医療保険や公的年金の仕組みである「社会保険」の仕組みや考え方を理解させる。 ※ 社会保障制度の中心は年金や医療といった「社会保険」という仕組みで成り立っている。 ※ 社会保険の財源はみんなが納めた保険料が中心であり、それに税が足されて運営されている。 ※ 社会保険の給付を受けるためには、事前に社会保険料を納めておく必要がある。 ※ 学生の場合や所得が低い場合には、保険料納付の猶予や免除といった仕組みもあるが、手 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像教材付属ワークシート

		<p>続きが必要である。</p> <p>・社会保険は、皆で保険料を出し合い、支え合うことで安心が得られるという仕組みであることを理解させる。</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>・ワークシート設問4の設問について考え、記入する。</p>	<p>・ワークシート設問4を考えさせ、記入させる（時間があれば、グループで話し合わせた後、答えを発表させたりしてもよい。時間が足りない場合は宿題にすることも可能である）。</p>	<p>・映像教材付属 ワークシート</p>

◆授業者のまとめ

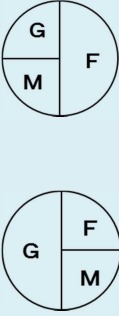
- ・社会保障制度に関して、生徒たちはどの程度、知っているのでしょうか？ 教員が思っている以上に「知らない」のが、授業を行った感想である。「保険証を持っていれば窓口で3割」「老後に年金がもらえる」「どうも年金がやばいらしい」と、このように漠然的に感じている生徒に対して、まずは社会保障に関して興味を持ってもらうこと、基本的な制度を理解させることが大事であると感じる。
- ・本実践では、導入にて、年金教材『10個の「10分間講座」』を使用し、社会保障教育に対して興味を持ってもらうよう工夫をした。ねらいは社会保障に関する興味・関心を高めるためなので、すべての問題を使用することはしなかった。
- ・映像教材では、途中で停止し、随時解説を入れるなどの工夫をすることもできる。
- ・映像終了後に、授業者からまとめを話すことで生徒の理解度が高まる。経験上、「社会保障は国が全面的に面倒を見てくれる制度(すべて税金で)」と勘違いしている生徒が多い。社会保障制度の大部分を占めるのは、社会保険であり、社会保険は社会保険料を納めることが前提となっている。その点を、意識して話をすることが重要である。
- ・社会保障給付費は年間約110兆円であり、この数値は国家予算(一般会計:年間約100兆円)を超える規模の金額になっている。それゆえ、社会保障のあり方を考えることは、これからの国のあり方、私たちの未来を考えることにつながることに同じである。まとめの時間に、このことを強く訴えておきたい。

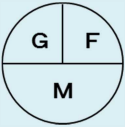
【2限目】

・授業のねらい:「支え合い」の観点から、今後の社会保障制度を考える。

(給付(サービス)と負担の両面から、これからの日本の社会のあり方を、社会保障の観点から考える。)

展開	生徒の学習活動	教師の指導・工夫	使用教材
導入 5分	<p>・「あなたが望ましいと考える「社会保障制度」とは？」を考え、自分の考えを表明する。</p> <p>・「実際の日本の「社会保障制度」はどの位置にあると思うか？」を考える。</p>	<p>・生徒が望ましいと考える社会保障の給付(サービス)と負担のバランスはどこに位置するかを、マトリクス(ワークシートP1 中段左側の、縦軸にサービスの高低、横軸に負担の高低をとったもの)に記させる。</p> <p>※ 黒板にマトリクスを拡大した紙を貼り、全員にマグネットまたはシールを貼らせると面白い。</p> <p>※ 「高サービスー低負担」の位置に貼った生徒には、「サービスに必要な費用はどこから出てくるのだろう」と問いかけて、費用に関して考えるきっかけを与える。</p> <p>※ サービスと負担に差がある場合は、政府の借金(国債)でまかなわれていることを説明に加えると発展的な理解につながる。</p> <p>・実際の日本の社会保障制度はどの位置にあるかをマトリクスを使って、考えさせる。</p> <p>※ 日本のサービス水準について高いと思うか、低いと思うか、負担水準について高いと思うか、低いと思うかを問いかけながら挙手させるとスムーズに進行する。</p>	<p>・理念やあり方ワークシート P1</p>
展開1 10分	<p>・社会保険が主に社会保険料を財源とし、社会福祉、公的扶助、公衆衛生が税を財源としていることを理解する。</p>	<p>ワークシート上段の囲みの部分の穴埋めをさせる。</p> <p>※ 「社会保障」「福祉」と聞くと、全て税で行っていると生徒は思いがちであるが、日本の場合はそうではなく、社会保険料が6割を占めていることを説明する。この際、数値を明示すると生徒の納得が得られる。</p>	<p>・理念やあり方ワークシート P2</p>

	<p>・社会保障制度が果たしている役割を理解する。</p>	<p>・なぜ社会保障制度が存在しているのかを、市場経済の仕組みを解説する中で理解させる。</p> <p>※図の解説例</p> <p>市場経済の社会では、貢献度に応じて所得(一次分配)を得る仕組みになっている。しかし、それだけでは格差や貧困が広がってしまい、様々なリスクに自力で全て対処することは難しい。そのため社会保障制度は、必要度に応じて所得を再分配する機能を担っている(ビスマルクの飴と鞭の政策を引き合いに出すと理解がしやすい)。</p>	
<p>展開2 5分</p>	<p>・日本の高齢化率、国民負担率を他国と比較し、グラフから読み取ることができる。</p>	<p>・日本は他国と比較して、高齢化率が世界一高い水準にある一方、国民負担率は低い水準にあることを読みとらせる。</p> <p>※ 上段のグラフから、日本の国民負担率が、国際的に見て低い水準であることを説明する。</p> <p>※ 下段のグラフから、例えば、高齢化率が国際的にも低位にあるアメリカ、韓国と国民負担率が同水準であること、日本より高齢化率が低い国であっても、日本より国民負担率が高い国が多くあることを説明する。</p>	<p>・理念やあり方ワークシート P3</p>
<p>展開3 20分</p>	<p>社会保障制度の3つのパターンの特徴を理解する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>(一人当たりの)福祉ニーズの量はどの国でもそれほど違いはないが、社会のあり方として、そのニーズをどこで満たすか(どの部門に担わせるか)によって、家族(F)依存型、政府(G)依存型、市場(M)依存型の3つのパターンに分かれていることを説明する。</p> <p>※ 各パターンの特徴</p> <p>○家族依存型の特徴・・・国民負担率は低いが、家庭内で子育てや介護といった福祉ニーズを満たすため女性の家事負担が大きくなる傾向がある。日本が家族依存型に該当する。</p> <p>○政府依存型の特徴・・・所得にかかわらず皆が同じ給付を受けるという考え方が強く、生活上のリスクを社会的な制度でカバーする範囲が広い。そのため、社会保障支出の水準は高いが、</p>	<p>・理念やあり方ワークシート P4</p>

		<p>負担の水準も高い。</p> <p>○市場依存型の特徴・・・福祉サービスを市場から購入することになるため、高所得者は超豪華なサービスを利用できるが、低所得者はサービスを利用できないこともある。国民負担率は低いが、社会保障をサービスを受けることに対して格差が生じるデメリットがある。</p>	
<p>まとめ 10分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 発問：みんなはどんな社会がいいと思う？ </div> <p>・あるべき社会保障制度について、グループで話し合う。</p> <p>※○の中をどのようにF、G、Mが構成される社会が良いのかを考える。</p> <p>・グループで話し合った結果を発表する。</p>		<p>・社会保障制度のあり方の違いは、各国の国民の社会観を反映したものであることを理解させ、自分なりの意見を理由とともに言えるようにする。</p> <p>※「社会保障制度を考えることは、どのような社会をつくりたいかを考えることと同じである」と伝え、議論が深まるように指示を出す。</p> <p>・結果だけでなく、議論の過程も発表させるように促す。</p> <p>※発表ごとに教師から講評を入れ、それぞれの発表のいいところを評価し、シェアするようにする(各グループが何を大事に考えたかという気持ちを汲み取ると評価しやすい)。</p>

◆授業者のまとめ

- ・給付(サービス)と負担のバランスのマトリクスでは、黒板に模造紙を貼り、クラス全員にシールを貼らすと、全体の傾向が見えるので、手法としては面白い。また他のクラスの結果と比較することも考えられる。
- ・「高サービスー低負担」の位置は、実際にはあり得ないことから、「高サービスー低負担」の位置以外の位置を選ぶように指示を出すことも可能である。
- ・「高サービスー低負担」の位置から、「サービスに必要な費用はどこから出てくるのだろう」と問いかけて、その後の負担の在り方につなげると、学びに深みができる。
- ・社会保障制度の3つのパターンを考える場合、どの形にもメリット、デメリットがあることを提示し、正しい答えはないことを知らせておくことが重要である。
- ・通常、「大きな政府ー小さな政府」「高負担ー低負担」の二項対立で授業を行うことが多いが、一見魅力的に映る「低負担」(と低サービス)の社会においても、福祉ニーズは減ることはなく、違った形で負担をしているということを伝えることが重要である。
- ・生徒たちにF,G,Mの円を書かせた場合、Gの割合が高くなる傾向が強い。これは男女ともにFへの過重な負担を

避けたいという考えからきているように思われる。またバランスよくF,G,Mを三分割することがベストであるという生徒も多く見受けられる。どちらの場合においても、Gの割合が増えるということは、租税や社会保険料という国民の負担が増えるということ(また、国に借金がある場合には、例えば消費税率が上がったとしても、制度の安定化に使われ、サービス自体は変わらないことがあること。)を、知らせておく必要がある。

・グループで話し合った結果を発表する場合、どのような社会にしていけばいいかという視点も含めて発表させると良い。

【3限目】

・授業のねらい:1、2 限目で学習した内容を、テキストを使用し定着させる。

展開	生徒の学習活動	教師の指導・工夫	使用教材
導入 5分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">発問：みんなは何歳まで生きたい？ 何歳まで生きられると思う？</p> <p>・自らの人生に置き換えて、社会保障制度について再度考える。</p>	<p>・人生には様々な生活上のリスクがあることを考えさせ、社会保障制度の役割について整理させる。</p>	
展開1 20分	<p>・社会保障制度の考え方、および日本の社会保障制度についてテキストを通して確認をする。</p>	<p>・テキストを読ませ、プリント(おもて面:社会保障制度総論)の穴埋めを行わせる。</p>	<p>・テキスト P1、2 ・教師自作ワークシート</p>
展開2 20分	<p>・公的年金の意義としくみ、医療保険の意義としくみについてテキストを通して確認をする。</p>	<p>・テキストを読ませ、プリント(うら面:年金・医療)の穴埋めを行わせる。</p> <p>・公的年金制度に関しては、現役世代全員で拠出した保険料を高齢者などに給付する賦課方式が採用されていることを理解させる。</p> <p>※積立方式では物価の変動に対応できないことを合わせて説明するとよい。</p>	<p>・テキストP3～5 ・教師自作ワークシート</p>
まとめ 5分	<p>・テキストを読み合わせ、社会保障制度の成り立ちや意義、今後の課題を整理する。</p>	<p>・これまで学んできた社会保障制度も、このままずっと同じでよいものではなく、少子高齢化などの社会経済情勢の変化に応じて変えていくことが必要であり、私たち一人ひとりが考えていくことの重要性を伝える。</p> <p>(本例で読み合わせた箇所)</p> <p>・生活上のリスクは、かつては家族で対応していた。</p> <p>・そうした家族の中での扶養を、社会全体に広げたものが社会保障である。</p> <p>・社会保障制度は、その6割程度が社会保険料、4割が税で支えられている。</p> <p>・こうした状況下、私たちはこれからどのような社会を目指していけばよいのだろうか。現在は、若者、女性、高齢者、障害者など誰もが参加できる活</p>	<p>・テキストP6</p>

	<p>・社会保障制度についてのレポートを作成する。</p>	<p>力のある社会、子どもを産み、育てやすい社会を構築し、全ての世代に安心感と納得感の得られる社会保障を目指して改革が進められている。</p>	
		<p>・これまで3回の授業を受けての感想をレポートに書かせる。(本授業では宿題とした。) (課題1) 3回の授業を通して、印象に残ったこと、感じたことを書いてください。 (課題2) 今後の日本では、どのような社会保障制度が望ましいと考えるのか、あなたの意見を書いてください。</p>	

◆授業者のまとめ

・3回の授業を通して感じたことは、生徒がマスコミなどから得ている社会保障制度の理解は非常にネガティブであるということである。それゆえ社会保障制度の意義や仕組みを学ぶことで、いかに社会保障制度が私たちの生活に重要な役割を果たしているかを理解することができる。本授業案では1時限目に「社会保障制度の意義」、2時限目に「今後の社会保障制度の在り方」、3時限目に「まとめ」となっている。1時限目のDVDの視聴では、授業後に新しい発見をしたという感想が聞こえたが、それ以上の深まりは見られなかった。しかし、2時限目のグループ学習を行うことによって、「どのような社会保障制度が望ましいのか」と深く考えるようになり、また、3時限目に自らの考えを文字化することでより深い学びとなった。

・3回の授業を通してなお、生徒の頭から離れない概念は「少子高齢化によって、将来自分たちが受け取る年金が少なくなってしまう」というものであった。授業者はあえて時間をかけて「積立方式では物価の変動に対応できない」と説明したにもかかわらず、それでもなお積立方式が望ましいと思う生徒がいる。このことから、いかに社会保障制度の本質を教えるのが難しいことなのかがわかる。教科書では積立方式と賦課方式が二項対立的に書かれていることが多いが、実際に授業を行って感じたことは、「どちらの制度が望ましいのか」という観点ではなく、「どのような制度が望ましいのか」という考えを持つことではなかろうかと感じる。

・高校生に対して一番考えてほしいことは、「自分たちは将来どのような社会を築いていくのか」という点である。現行の制度の問題点を批判することは容易ではあるが、その先を考える生徒を育てていきたいものである。ベストな社会保障制度というものは、なかなか存在しないし、どの政策や仕組みにもメリット・デメリットはある。そのことを生徒に理解させ、そのうえで「どう考えるか」という視点を考えさせたい。

・公民科の目標に「多面的多角的に考察させる」という視点がある。社会保障制度に関しては、現役世代と将来世代という立場に立ち考察させる授業が多くみられるが、その際は公的年金の負担と給付という視点だけでなく、公的・私的負担という視点や、社会保障制度があることにより、「安心して生活ができる」などという“目に見えないベネフィット(便益)”，または社会保障制度が整っていなければ自分自身で費用をまかなわなければならない(備えておかなければならない)という“目に見えないコスト”という点まで抑えることこそが、「多面的多角的に考察させる」ということにつながると感じる。

◆生徒の感想(3時限目終了後に記入したレポートより)

・私は社会保障制度について、社会保険や公的扶助のような大まかなことしか知りませんでした。それなのに、今後の社会保障制度を、少子高齢化の進展による社会保険料の負担の増加から、とても悲観的に考えていました。今回の授業を通して、国が高齢者の雇用環境や女性が今まで以上に働きやすい環境を作る政策を進めているとの話を学び、目に見える負担だけで考えてはいけないと感じた。

・今回の授業を学び、高齢者の定年引上げなど、国民のライフスタイルを変えるような改革も必要なのかと思った。

・育児や介護など、一人で大変なことをみんなでやるのは、よい制度だと思った。

・私はこの授業を受けるまで社会保障制度はあって当たり前で、自分のためだけにあるものだと思っていました。しかし社会保障制度の構造を聞いて、自分のためだけではなく、みんなで万が一のために備えを作っておくことで、困ってしまった誰かほかの人が助けられる素敵な制度だと思いました。たしかに高齢化が進む日本にとって、若い世代の負担が増えていく問題はあるけれど、私たち一人一人が働き、税や社会保険料を納めることで自分自身や周りの人たちを助けてくれることの方がとても重要なことだと思います。「個人の力では備えることに限界がある生活上のリスクに対して社会全体で支え合う社会を作ることにつながる」という言葉がすごくいいなと思った。

・授業を通して、社会保障制度のおかげで、平等で平和な社会が築かれているのだと感じた。また社会保障制度とともに国の信頼性を高めていくことが必要だと感じた。どんなに良い社会保障制度であっても年金がちゃんと払われるのか確実性がなければ滞納する人も増える一方だと思う。国が国民との信頼性や安心を築くことで、社会保障制度の重要性を再認識する人が増えていくことになると思った。

・社会保障制度は万能な制度であると感じた。なぜならば生活の面、所得を再分配できる面、経済的な面という様々な面にしっかりと対応して機能しているからである。

・社会保障制度は、この社会の中で本当に重要な役割を果たしていると、つくづく感じます。誰だって生きていく上で困難に立ち向かっています。安定した生活が送れなくなる可能性はいつだってやってくるものでしょう。その中で、誰もが平等にお金を出し合って、今現在自分は健康で安定した生活を送れていても、そうでない人のために助ける仕組みは素晴らしいと感じました。

・20歳になったら納め始める公的年金は、自分が将来受け取る年金になるのではなく、今の高齢者の年金になるということを知ってとても驚いた。だが、私たちが20代の頃と、60代の頃とではお金の価値が異なることはよく考えればわかることで、積立方式よりも賦課方式の方が現実的だと思った。

・社会保障制度についての授業を通して、今までの社会保障制度に対する自分の間違った認識に気付かされいかにこの制度が重要であるかということを知りました。私は2歳の時から現在まで気管支ぜんそくを患っており、多い時にはひと冬に10回近く病院に通うことがあります。今回の授業を通して、私に最もかわりの深い医療保険の仕組みに本当に感謝したいと思いました。自分がこんなにも社会保障制度の恩恵を受けていたことを知り、この制度を決めた人々の判断がありがたく、この社会保障制度が整っている日本に生まれてこられたことに本当に感謝したいという気持ちになりました。

・今の日本の社会保障制度の形態は家族依存型ですが、この型のデメリットである「女性の負担が大きい」というのは、私も母を見て、強く感じました。普段は働きながらも、家事をすべて済ませ、週末行う祖母の介護は、労働以上の負担であり、精神的にも大変なものだと思います。それゆえ私はスウェーデンのような政府依存型にするのが望ましいと思います。

・私は少子化をサポートするような社会保障制度と高齢者をサポートするような社会保障制度を強化して、より時代に合った社会保障制度にしていくべきだと思う。

- ・3回の授業を通して、日本の社会保障は個々へのサポートや保障をする社会保険や公的扶助だけでなく、社会全体を支える社会福祉や公衆衛生の役割も含んでいることを知りました。
- ・一番印象に残ったことは、「働ける人には働いてもらう」という言葉です。これから少子高齢化が進むと租税や社会保険料を納める側の私たちの負担は当然大きくなる。私には、そのことに対して、どんどん負担が大きくなってしまふという発想しかなかった。「若い人が支えるという定義ではなく、働ける人が支える」という考え方を聞いて、65歳の定年退職を過ぎても元気そうな人たちを思い浮かべることができた。
- ・年金は高齢者のためだけでなく、障害のある人などでも受け取ることができることや、自分の将来のためではなく、今の高齢者のために使われていることがわかった。またこの制度によって、家族の負担も減らしてくれることを知って、制度を作るときは誰の役にも立つように作られているということがわかった。